

## 家庭生活における人間の状況と家政学(Ⅲ)

——現代日本文学からの分析——

郡山女大短大 真船均

現代の家庭生活の中の人間の状況について考へる時、現代文学作品を掘り起こすにすることはそれほど見当りがいい方法ではないであらう。私たちの日常的な姿がかなり鮮明に浮かび上がってくるのではないだろうか。

このような前提に立つ讀者は今年つまり1981年上半期に発表された現代日本の小説を読むことにする。具体的には新聞紙上の文芸時評の中で論ぜられた作品に限定する。読書の秋山駿、毎日の篠田一士、そして朝日の井上ひさし各氏がそれぞれ文芸時評を担当しているが、これらの文芸評論家、作家は毎月発表される夥しい作品群を可能な限り公平に読んでいるに相違ない。従って彼らの俎上にのぼった作品に讀者が焦臭をあげることは考へられる無理のない一つの方法であらうと思う。

現代文学を通して映し出された現代家庭生活の様々な姿、あるいは様々な歪みたるものを「人間守護」の学たる家政学がはたしていかなる方法で抱擁することが可能か、について考へる。